

# 火を焚き、道具を使い、暮らす

自分の  
仕事や役割は  
自分で考える



大きい枝はね、  
こうやって  
折るの!

上手に、マネして覚えていく。子どもたちは、大人のすることにあこがれを持っている。おやつひとつ配るのだって誇らしげで、自信につながる。何よりも楽しい。道具を使うのも同じ。少しずつ見て覚えていく。先生や仲間の仕草に目を凝らす。次は自分がやるのだから真剣に。



今は、ガスや電気、レンジなど便利な物を使って、簡単に調理ができてしまう。そういったものを使わない園児たちの食事作りには時間がかかる。とはいっても、少し前までは、それが普通の暮らしだった。ちゃんとした暮らしの根っこを子どもたちに持ってほしいと園長は願っている。

# たくさん 人の手を 借りて暮らす

冬まつり  
餅つき



お餅をつくお米はどこから来た？  
田んぼ  
みんなは田んぼで  
どんな仕事をしたか思い出して。  
稲刈り 脱穀 稲干し  
もみすり 精米  
一番はじめは？  
田植えの前は？  
小さいポットに何を置いた？  
お米の赤ちゃんを置いた  
お米の赤ちゃんはどこからきた？  
種だね。種はどこからきた？  
去年のお米 稲刈りしたお米  
前の年にみんなが育てたお米だね。  
そう、種もまた田んぼから来たね。  
不思議だね。おもしろいね。  
人と同じだね。みんなは、お母さんから生まれて、お母さんはお母さんのおかあさんからうまれて、みんなつながっているね。



自然の中でしか育たない子どものいのちのちからがある  
仲間の中でしか育たない子どものいのちのちからがある  
暮らしの中でしか育たない子どものいのちのちからがある

## 三重県野外体験保育 普及啓発事業について

三重県では、子どもの豊かな育ちを基本とした子育てを推進しており、「野外を中心」「地域の自然を活用し体験活動を取り入れた保育や幼児教育」を「野外体験保育」と定義し、普及を進めています。



野村 えみ子さん

三重県で野外体験保育を実施するにあたり、独自で調査した「三重県野外体験保育有効性調査」によると、野外体験保育の実施頻度が高い施設ほど多くの園児に「自分から進んで何でもやる」「人のために何かをしてあげるのが好きだ」などの様子が見られると回答した割合が高いことがわかりました。このことから、自己肯定感の向上を含め、子ども自身が考え、主体的に行動し、また他者とのかわりの中で共に支え合う「生き抜いていく力」を育む野外体験保育が三重県内どこでも広く取り組まれる状況をめざしています。

## 三重県少子化対策課